

令和元年度 第2回尾張旭市介護保険運営協議会会議録

1 開催日時

令和元年11月29日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後2時40分

2 開催場所

市役所 3階 302・303会議室

3 出席委員

上田智子、松尾功、山崎雅弘、奥田百彦、木村誠子、森修、加藤肇、平野君恵、岩田善保、丹羽睦、長尾みどり、椿山岳史、柳原大介、大島卓郎、倉地薫（計15名）

4 欠席委員

なし

5 傍聴者数

なし

6 出席した事務局職員

健康福祉部長 竹内元康、長寿課長 山田祐司、長寿課主幹 長嶋ゆかり、長寿課長補佐兼長寿政策係長 山下由香、長寿支援係長 川原尚子、介護保険係長 大津俊介、主査 丸田純史、地域包括支援センター所長 木上恒夫

7 議題

- (1) 令和2年度における低所得者の介護保険料軽減強化について（資料1）
- (2) 第8期高齢者保健福祉計画の策定について（資料2）

8 会議要旨

<p>< 開 会 > 事 務 局</p>	<p>定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思います。私、長寿課長の山田でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日はお忙しい中、令和元年度第2回尾張旭市介護保険運営協議会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日は15名の委員の御出席をいただいております。尾張旭市介護保険運営協議会規則第5条第2項の規定にあります定足数に達しておりますことを御報告させていただきます。本日は、第8期高齢者保健福祉計画の策定業務支援事業所であり、株式会社サーベイリサーチセンターの名古屋事務所の杉田研究員にも会議に出席していただいておりますので、よろしくお願ひいたしま</p>
--------------------------------	---

<p>上 田 会 長</p>	<p>す。開会に当たりまして、会長の上田様から挨拶をいただきたい と思います。</p> <p>＊＊ 会長挨拶 ＊＊</p> <p>こんにちは。いよいよ師走という感じですが、今年は暖冬で 寒さもあまり感じずにきました。皆様も御健勝のことと存じま すが、まだ委員としては任期が残っております。来年もございま すので、引き続き御協力の程よろしくお願ひいたしたいと思いま す。それでは、早速議題に入らせていただきます。</p>
<p>長 寿 課 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に入る前に、本日の資料の確認をさせていた だきます。</p> <p>＊＊ 資料の確認 ＊＊</p> <p>それでは、以降の議事の進行については、会長にお願ひした いと思います。</p>
<p>上 田 会 長</p>	<p>それでは、議題(1)「令和2年度における低所得者の介護保険 料軽減強化について」、これにつきましては、既に国から示され ているとおりでございます。内容につきましては、事務局から説 明をお願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>＊＊ 説明 ＊＊</p>
<p>上 田 会 長</p>	<p>ありがとうございました。この内容につきまして、何か御質問 等はございませんか。最大限に適用していただけるということ ですので、市民の方にとっては大変有り難いものになると思いま す。4分の3を負担していただけるということですので、市とし てもそれほど負担が大きいわけではないと推察できますが、いか がでしょうか。</p>

大 島 委 員	<p>条例上の額と書いてありますが、条例上はずっと、例えば第3段階だと41,300円で軽減措置があるというだけの話なのか、条例上38,900円になるのかということが読みとれませんでした。どちらになるのでしょうか。</p>
事 務 局	<p>介護保険の条例上、細かな話をしますと、本則のところでは本来の額、高齢者保健福祉計画にある条例の額を定めておきまして、軽減後の額につきましては附則的な扱いで令和何年度はこの額にするという形で条例にも示しますので、条例改正自体はございます。ですので、本来の額は本則で、軽減後の額は附則でというような形で条例改正をさせていただく予定であります。</p>
大 島 委 員	<p>少し心配な事は、例えば後期高齢者医療の保険料でも知らないうちに、最初に決定された額がどんどん上がって行って、決められた額になってしまったという経過があるように聞いたことがあるので、その辺りが恒久的に行っていくのであればいいのだけれど、消費税を上げたから半年間は2パーセントの何かもらえるよという気がして、その辺りの心配があったので、質問させていただきました。</p>
倉 地 委 員	<p>条例では、以後ずっとこのとおりで、終わりが無いということですか。それとも、令和2年度はこれだけ減額します、ただし令和3年度以後のことはわからないから、また決めましょうということなのではないでしょうか。</p>
事 務 局	<p>愛知県に確認しましたところ、この軽減制度自体は令和3年度以降も続くようです。ですので、軽減制度自体は続くのですが、令和3年度になると計画の見直しで保険料の基準額自体が変わってきますので、それに伴って軽減の内容も変わっていくことになるのかなと考えています。</p>
倉 地 委 員	<p>では、毎年同じような事をしなければならないということですね。令和3年度の額、令和4年度の額ということですね。</p>

事務局	<p>そうですね。ただ、その辺りもあらかじめ分かっていたら、最初のところで議論していけばいいのかなと考えております。</p>
上田会長	<p>中々厳しい介護保険の事が取り沙汰されておりますので、今、上がるばかりの世の中で下げるとするのは非常に苦しいところではないかなと思います。しかし、低所得者の方については軽減措置があるということは有り難いことだと思います。これが、持続可能性がどうかということが何事においても大切なポイントということで、御指摘はごもっともだと思います。その辺りは収支バランスに尽きるかもしれませんが、今後の推移を見守るしかないでしょうかね。あとよろしかったでしょうか。</p>
上田会長	<p>ありがとうございました。それでは、次の議題に移りたいと思います。それでは、議題(2)「第8期高齢者保健福祉計画の策定について」説明をお願いします。</p>
事務局	<p>** 説明 **</p>
株式会社サーベイリサーチセンター	<p>** 説明 **</p>
上田会長	<p>これらの内容につきまして、御質問等はございませんか。</p>
森委員	<p>今自分が尾張旭市に住んで65歳以上になるものですから、65歳以上のアンケートというのはひょっとしたら私のところにも届くことがあると思いやってみたのですが、一番表のアンケートのお願いで、四角の中の「問い合わせ先」の一番下の※印が「ご記入の前に」の全体の※印のような勘違いをしそうなものですから、丁寧にやるなら「問い合わせ時間」として、例えば「午前8時30分から午後5時15分まで(アンケート期間中の平日</p>

に限ります。)」とか、「問い合わせ先」というと先だけですから、「問い合わせ」として例えばこの住所を下げしておく、右にずらしておくなど、少し横着な感じがするので「問い合わせ時間」としてきちんと書いた方が丁寧だと思います。

それから、1 ページの問 3 で、私のところは、私と妻が 6 5 歳以上で母がいるのですが、そうすると「その他」になるのですかね。4 番がなぜ「息子・娘との 2 世帯」なのですか。私の場合ですと、私と妻と母親で 1 世帯です。本人さんと息子・娘との 2 世帯というのは、世帯分離をしている場合はそうかもしれませんが、夫婦 2 人で 6 5 歳以上だと老老介護になるかもしれない、私の所だと縦の老老介護になっています。今 1 人暮らし、2 人暮らしで 6 5 歳以上、6 4 歳以下それだけ把握できればどうでもいいよということであれば、4 はなしでもいいと思います。なんだか 4 がこの中では違和感があります。その辺りは検討されたらどうかと思います。

それから、5 ページの問 1 2 で「外出する際の移動手段は何ですか」ということですが、年に 2 回ぐらいタクシーに乗るとかそういうのまで入れてしまうと的が外れてしまうような気がしますので、「主な移動手段は何ですか」とすれば、1 回くらいのは外しておこうということになるのではないのでしょうか。性格によると思いますが、一度あさび一号に乗ったことがあるから丸を打っておこうとかはアンケートの趣旨から外れると思いますので、もう少しその問いの言い方を工夫されるといいと思います。

それから問 1 4 の 2 番目と 3 番目ですが、「お茶や汁物等でむせることがありますか」と今聞かれて、8 月に 1 回少しむせたことがあるから「はい」にしておこうとかがあるので、「よくむせることがありますか」、「口の渇きがよく気になりますか」のような質問にした方が自然な回答になるのではないかと思います。

それから、6 ページの問 1 7 で、認知症の関係か分かりませんが、1 の「物忘れが多いと感じますか」というのは通常に比べてマイナス要素で、ちょっと認知症かもしれない、3 の「今日が何月何日かわからない時がありますか」もマイナス要素かなという感じがします。しかし、2 の「自分で電話番号を調べて、電話を

かけることをしていますか」はできるということになると、認知症に対してプラス要素になってしまうのではないかと思います。これが何を聞きたいのかよく分かりません。調べて電話をかけることができるか否かを知りたいのか、ちょっとした知り合いでも電話帳を調べなければ電話をかけられないのかを知りたいのか。認知症気味ですか、ということを知りたいのであればそのような問いにしていただければと思います。

上 田 会 長

ありがとうございました。問3の世帯構成については統計資料等がいろいろな所に出るかと思うのですが、独居、2世帯、委員が先程おっしゃった自分を中心に親・子どもというのがもちろんあるかと思うので、世帯構成については統計資料等との比較も必要になってくると思いますが、根拠があってこれはこういう聞き方であれば、準拠しなければいけないと思いますし、あえてどこで比較していくかということによるかもしれませんが、検討していただきたいと思います。

質問の聞き方については、今お答えいただいたとおりで、文章の点検をやっていただき、大変有り難いと思いますし、今、聞いておりますと、なるほどという気もします。他のところで気になった点等がございましたらお願いします。

丹 羽 委 員

14ページの問49の「オレオレ詐欺などにあわないよう心がけていることは」という問いに対して、1は「絶対に現金を渡さない」とありますが、その後は2「知らない番号から電話がかかってきたら家族に電話をするようにしている」、3も「警察へ相談するようにしている」となっていますが、そういう不審電話はそう滅多にかかってくるものではないので、「そういうふうにしようと思っている」ということなら理解できるのですが、これだと頻繁にかかってきて私はこういう防御をしています、という答えを求めているのではないかという気がして引っ掛かりました。

あと、最後のページの問54-1で1・2・3と答えた方が次にという流れですが、私が自分を当てはめて考えたときに、特にエンディングノートを作っているわけではないですが、漠然とこ

	<p>ういう風にしていきたいと考えたことはあるのですが、選択肢に当てはまるものがなく、結局4の「考えていない」に該当してしまうのではないかと思いました。そのため、ここが上手に答えにくかったです。</p> <p>先程言われていたように、問3については、まだ結婚していない子どもと同居をしている場合、どこに丸を付けたらいいのかと思いました。それから、問17の「物忘れが多いと感じますか」ということで、確実に物忘れが多いということは実感するのですが、実際それが多いのか少ないのかは判断できなかったということと、「電話番号を調べて」というのは65歳以上の人でもスマホで登録してあるのではと思い、家庭の固定電話でというような感じは違うかなと思いました。</p> <p>次に、問34でタバコがあるなら、酒もあってもいいのではないかと思いました。</p> <p>そして問50ですが、当てはまるもの5つまでとありますが、やってみたら8つになりましたので足りないと思いました。</p> <p>問51については、設定そのものが非常に意図的だなと。利用者側からしてみたら、利用すればするほど保険料が上がるから利用してはいけないと暗に言っているのではないかと怒りを感じました。国とか行政がもっと支出すべきと、特に消費税を上げた後ならば遠慮なく言わせていただきたいと思います。問51は4番に「国がもっと支出を増やすべき」という選択肢を入れて欲しいなと思いました。人生会議というのは最近知りました。</p>
<p>大 島 委 員</p>	<p>山 崎 委 員</p> <p>要介護認定者アンケートについてですが、こちらは御本人が書くか介護をされている方が書くというパターンですが、例えば御本人がこれだけ細かい内容のアンケートに答えられるのかというのが一点と、大変なのかもしれませんが、御本人が回答する場合のアンケートと介護者が回答する場合のアンケートを分けられた方がいいのではと思いました。もう一点、細かい事ですが、5ページの間7-2の2番で「～するだけでなく、」の後に改行があるとおかしいのではないのでしょうか。</p>

株式会社サー ベイリサーチ センター	修正します。
上 田 会 長	<p>要介護者認定者アンケート問7-2は少し設問が長いですよ ね。重複表現だから文章で書いた方が丁寧といえるのかどうか。 ミスが多い人は1番に丸をつける、さらにという意味で2番に丸 をする。ただし、丸は1つなのですよ。どちらに近いですかと いう意味で2番が入っているのですか。</p> <p>この要介護認定者アンケートは、御本人が答えられない場合は 家族が答えるというのが大前提ですよ。ここは本人にしか答え られないとか、難しいところは家族が答えるというスタイルにな っているの、そこは本当の意味での一致がないというか、ある 種家族の立場での推測がどうしても入ってしまうのはやむを得 ないことでしょうか。御本人だけでは限界があるという前提に立 って、このスタイルをずっとやってきているように思いますが。</p>
株式会社サー ベイリサーチ センター	おっしゃるとおりだと思います。
岩 田 委 員	<p>今、山崎委員がおっしゃったように、項目が長すぎてそれに丸 を打てというのは無理だと思います。例えば2の中で丸を打つ所 を4つぐらいにしてもいいくらいだと思います。そうしないとこ ちらは丸でこちらはバツだというような問題が出てきてしまい ますので、丸を打つ項目をもっと細分化するべきだと思います。 全体的に他の項目でも、こういう所があるのではないかと思いま す。そういうのがある場合は、回答者が丸を打ちやすいように質 問した方がいいと思います。他の項目についても、もしそういう 箇所があればチェックなさったらどうかと思います。</p>
上 田 会 長	質問の意図というところが一番大きいのかなという気がする

のですが、「どちらかという1つ」では0か1の世界ですので、もしかしたらどちらもという方も出てくる可能性もあり、内容が詳細であればあるほど複数出てくるというのは当たり前じゃないかなという気がします。究極の選択のときの中間というのは、普通アンケート上出てくるはずですが。単純に言うと「どちらともいえない」というパターン、特に日本人は「どちらともいえない」という傾向が強いと言われています。そうすると、「道に迷う」「買い物を間違える」「薬の管理ができない」「電話の対応ができない」という4つを聞いていることになると、「道に迷う」と「買い物」、「薬の管理」と「電話対応」の2つに分けて、この仕切りは何ですか、ということにもなってしまいます。そうすると、「道に迷う」と「買い物」というのは外出的なところ、そして中の家庭的なことの一つの例である「薬の管理」と「電話の対応」。今の質問の中からすると、1番は外出時なのですが、外出時のミスや戸惑いがあるかないかを聞いていて、もう一つは家庭内ですので、ここに「外出時だけではなく」と書くことが混乱の要因ではないかという気がします。質問の中身からいうと明らかにそうです。もしそうだとすると、2番の「外出時だけでなく」自体がここに文言を入れることが不適切になるのではないかなと思います。「家庭で薬の管理や電話ができないことがありますか」という方がまだいいような気がします、いかがでしょうか。

株式会社サー
ベイリサーチ
センター

この文章ではお答えするには長い文章だと思いますので、検討させていただいて答えやすい質問にしたいと思います。

上田会長

65歳以上のアンケートの方は対象が非常に多く、今、委員の中でもやっけていただいているということですので、世帯については先程申し上げたとおりです。一般的に問14辺りは健康状態ですが、先程出た「よく」を付けたらどうかというものもあるのですが、健康状態を聞くときはアンケートをとる基準となるものを書いてあるものですが、それを一体どこまで遡るかという問題が出てきます。一般的には「ここ最近1か月で」とか「ここ半年以

内で」こんなことがありますか、とかいうような聞き方が多いと思います。そうでないと、言い方は悪いのですが、高齢者の方は昔のこともよく覚えていらっしゃるので、それは何年前にあったな、ということにならないとも限らないということです。もちろんこれは年に1回やっていることなので、聞く方は今年の事だと当然に思っている、聞かれる方は昨年あったかと答えるかもしれません。となるとやはり、どの辺りをターゲットにして聞いているのか、調査時点での遡る時期をクリアにした方が健康状態に関してはいいのではないかと思います。

あと、問17の物忘れについてですが、確かに御指摘のあったとおり2番はIADL（手段的日常生活動作）で、物忘れそのものに関する質問と電話をかけるというIADLのできる、できないの質問については、どちらかという問18の日常生活での活動や行動に含まれてしまうので、これを問18に入れるべきなのかどうか。物忘れの多い少ないという主観的な感じ方が回答になると思いますので、何が聞きたいのかというのがはっきりしていない気がします。一般的な物忘れが増えてきたと言われると、私も、もう物忘れが多いなと自分でも感じていますので、「はい」になってしまいます。さすがに何月何日が分からないというのはあまりないのですが、そのプラスアルファで何が聞きたいかです。よくあるのは、「あれ、あれ」と言って画像は浮かぶけれど人の名前が出てこないということが聞きたければそういう答えを、そこのレベルを聞きたいのかどうかははっきり分かりません。電話をかけるということは行動になるので、純粋な脳の記憶力だったりとか想起機能だったりとは違う場合を聞いているというのは御指摘のとおりだと思います。ここはいわゆる、記憶力・想起力というものを頭の機能的な自覚として聞いているのだとしたら、この質問は違うということになってしまいます。

事務局

問17の2の項目ですが、前に東京都老人総合研究所の鈴木先生が作られた生活機能評価のチェック項目にほぼ沿って作られているもので、「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか」の趣旨は、私の記憶によると、忘れた時に自分

	<p>で調べるといえることができるかできないかを見るための項目という風にその時に理解した記憶があります。少し前のことなのでもう一度確認は必要ですが、これが物忘れの項目に入っている意味はそういうことだと聞きました。</p>
森 委 員	<p>少し言葉足らずではありますが。例えば「友人の電話番号を忘れた時に」が頭に付けば理解できると思います。いきなり「自分で電話番号を調べて」となると何のことですかとなりますが、「かけなければならない番号を忘れた時に、調べて電話をかけることができますか」となっていれば理解できます。</p>
事 務 局	<p>この質問の趣旨などのマニュアルが昔あったと思います。</p>
上 田 会 長	<p>この辺りも今一度確認していただければ。でも、電話番号はよほど親しい人でないと覚えていないですよ。スマホの時代なので調べない限り、正直言って、全然覚えていないです。そういう時代の中で、東老研の生活調査というお話でしたが、はっきり言ってそれはかなり古いですね。</p>
事 務 局	<p>そうですね。平成20年ぐらいの話です。</p>
上 田 会 長	<p>言い方によっては、時代錯誤になってしまう可能性があります。つまり、生活様式が変わってきていますので、それをあえて引っ張ってくる意図は何かということにもなります。時代に合わせた質問の仕方を検討しなければいけないのではないのでしょうか。それを踏まえてもう一度御検討いただければと思います。</p>
木 村 委 員	<p>この調査項目の内容というのは、厚生労働省のニーズ調査を元にそれに準拠したもので作った内容になってくるので、見える化システムに入れ込んで、それを比較して統計的にこの福祉計画の参考としていくということになり、内容を変えるということになるとシステムに入れ込むことが違う形になってくるのではないかと心配です。今、厚労省から出しているものを変えることがど</p>

	うなのかと思ってしまいます。
倉地委員	我々が考える前に最初から国が決めたものの丸写しという理解でよいですか。
木村委員	独自の項目は良いと思いますが、それ以外の項目が。
倉地委員	では我々の入る余地はないですね。
事務局	先程木村委員からも御指摘があったように、こちらのアンケートは厚生労働省が示しています介護予防日常生活圏域ニーズ調査というものに準拠しておりまして、国が示した中で必須項目がございまして、基本的には質問と選択肢は同一のものにしないでということになっております。その後、近隣市との地域比較や、今までも同様の質問をしていますので、経年の比較等をして見える化システムに入れまして、対象者や地域の把握に活かすものになっております。今回お手元にございますアンケートというのが、厚労省が示した必須項目とオプション項目、更に尾張旭市の独自項目というのがございます。例えば、先程話が出た中で、問49のオレオレ詐欺の関係ですとか、主に問39、問47～49以降が独自項目です。それ以外の厚労省の示した必須項目というのは、いろいろ有り難い御意見をいただいたのですが、事務局としては、経年の比較と他市との比較のために入れさせていただきたいというのが実情でございます。
岩田委員	国が結局こういうアンケート結果が出てくるといいなと思って設問をしている可能性があるわけですね。恣意的な設問ではないかと思えます。そういう風だと、非常にアンケートをする人を馬鹿にしているのではないかと、市独自のものはないのか考えたくりますが、厚労省がやれというのであれば、やらないわけにはいきませんよね。
上田会長	質問事項は一言たりとも変えてはいけないというのは決まっ

<p>事務局</p>	<p>ているのですか。整合性を期すためには、市民の方に理解しやすい質問にすべきだと思います。</p> <p>実は今回から、この日常生活のニーズ調査を国のとおりにやったかどうか、一昨年から創設された保険者機能強化推進交付金の評価項目に入ってしまった。国のとおりにやっているということがないと、交付金の増減にも関わってくるというところもございまして、なるべく国が示した調査仕様に基つきつつ、尾張旭市の独自項目については、お送りした方にとって分かりやすく反映させやすいような内容にすべきだと思っておりますので、いろいろ悩ましいところはございますが、御理解いただければと思います。</p>
<p>上田会長</p>	<p>ありがとうございます。後ろの方の独自項目については、今の御意見を反映させていただいて、アンケート調査を行っていただければ有り難いと思います。以上よろしいでしょうか。活発な御意見ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題としては終了させていただきます。今後の日程について、事務局よりお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後の予定でございますが、次回の第3回介護保険運営協議会は令和2年2月に予定しております。また1か月前には御連絡させていただければと考えております。次回は、第8期の高齢者保健福祉計画のアンケート調査の進捗状況等を示す予定でございます。</p>
<p>上田会長</p>	<p>ありがとうございました。次回は年明け2月ということですので、皆様健康に留意されて、また全員が御出席になれるといいかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、第2回の協議会につきましては終了させていただきます。御協力ありがとうございました。</p>